

マグロ類漁獲実態調査

(日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査)

田中伸和・藤川裕司・若林英人・石田健二・為石起司*

1 研究目的

資源管理に必要な知見が十分でない日本周辺におけるマグロ類の漁獲データと生物学的情報の収集および解析を行い、マグロ類の資源評価に必要な基礎資料を整備する。漁獲状況などの収集は21道府県が協力して実施し、データ集計と解析は日本エヌ・ユー・エス(株)が担当する。

なお、結果の詳細は「日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査委託事業報告書 - 」に報告した。

2 研究方法

浜田市、五十猛、大社町、平田市、恵曇、浦郷の各漁協の販売統計書からクロマグロ、ビンナガ、メバチ、キハダについて、月別、漁業種別漁獲量の集計を行った。なお、クロマグロについては、体重20kg以上の個体をマグロ、体重20kg未満の個体はヨコワとして別途集計を行った。また、浜田市、大社町漁協については漁獲尾数の集計も行った。さらに、浜田港、五十猛港に水揚げされたヨコワの生物測定(尾叉長、体重、生殖腺重量など)を実施した。

3 研究結果

- 主要6市場(浜田市、五十猛、大社町、平田市、恵曇、浦郷)における1999年のクロマグロ及びコシナガの漁獲量は約761トンで、前年の413トンを大きく上回った。
- マグロは主に定置網で漁獲され、調査対象6市場のうち浜田市、大社町、恵曇、浦郷の4市場で水揚げされた。1999年の漁獲量は約1.8トンで前年に引続き低水準で経過した。
- マグロの魚体は20~30kg級と50~60kg級の小型個体が主体であった。
- ヨコワ(コシナガを含む)の水揚げ量は760トンで、大中型まき網による浜田港への水揚げが大幅に増加したことにより前年を大きく上回り、1992年以降で最高となった。
- 大中型まき網の水揚げは6、7月に集中してみられ、この2ヵ月で大中型まき網の水揚げ量の80%を占めた。1997年にみられた秋のピークは1998年同様みられなかった。
- 曳縄釣によるヨコワ漁はほぼ例年どおり10月中旬に始まり、そのピークは11月にみられたが、1月にも漁獲がみられている。1997年以前は12月に終漁していたが、1998年、1999年と漁期が翌年の1月まで続く傾向にある。
- 定置網では5月から9月にかけて比較的まとまった漁獲がみられたが、浜田市漁協でのコシナガの水揚げ状況から、この漁獲物のほとんどはコシナガと考えられる。
- 大中型まき網の漁獲サイズは、5~6kgの個体が漁獲の中心となることもあるが、年間をとおしては3~4kgの個体が主体であった。曳縄釣では1~2kgの個体を中心に漁獲されており、1998年漁期の漁獲の主体であった3~4kgの個体はほとんどみられなかった。

* 島根県栽培漁業センター